

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601420	事業の開始年月日	平成31年3月1日
		指定年月日	平成31年3月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア上鶴間グループホーム		
所在地	(252-0302) 神奈川県相模原市南区上鶴間1-12-15		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月9日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

月に一度、移動パン屋さんを施設に招いています。パン販売の日は、ご利用者様にお好きなパンを選んでいただき、そのパンを昼食時に提供させていただいています。また、パンの販売場所は施設駐車場を提供し、地域のコミュニティとして活用しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月13日	評価機関 評価決定日	令和8年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急江ノ島線「東林間」駅から徒歩約16分の住宅街に位置し、近隣に大型ショッピングセンターがあります。

<優れている点>

入居者の意向と生活継続を目的に、管理者は職員の思いを反映した理念のもと支援を行っています。年末年始に帰宅を希望する入居者には家族と調整し、正月を実家で過ごせるよう支援しています。「今できること」を継続するため、朝夕の体操などの運動を多く取り入れ身体機能の維持・低下予防をしています。夜間を含めたトイレ誘導を行い、車いす利用者やおむつ使用の入居者にも対応することで、尊厳の保持に努めています。適切な支援者がいない入居者には成年後見人の必要性を判断し、相模原市南高齢・障害者相談課へ相談のうえ市長申立を実現しています。

<工夫点>

認知症の特性に応じた生活リズムの維持を目的に、時計の絵で一日のスケジュールを掲示しています。書き初め会の抱負を職員と協力して壁飾りとして掲示し、少しでも気持ちが前向きになるように工夫しています。排便がない入居者にはトイレ内の付き添い時間を長くするなど、一人ひとりの状況に合わせて工夫しながら支援をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を事業所内に掲示し、フロア会議等での話し合いの際、事業所理念を念頭においています。	職員の思いを入れた理念を職員の見やすい場所に掲示し、支援の方向性を全員で共有しています。管理者はカンファレンスで「知識や技術の向上に努め」チームで支援しようと伝えています。年末年始に家に帰りたいと希望する利用者には家族と調整し正月を実家で過ごせるように支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を開催し、自治会、地域包括センター、民生委員、ご家族様等、外部との関わりをもっています。移動パン屋でのパン購入や散歩等で外部と接する機会もあります。	地域との交流を通じた利用者の社会参加を目的に、自治会主催の納涼祭への参加や、月1回駐車場に來訪する移動販売パン屋の買い物を地域住民と一緒にしています。コロナ禍で延期していた地域包括支援センター提案の「生き生き100歳体操」については、事業所内で開催し地域住民にも参加を呼びかける方向で検討を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学を随時受け入れています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の活動状況、ご利用者様の日々の様子等話し合っています。	地域包括支援センターの職員から花の種を受け取り、事業所内での栽培に取り組んでいます。住民も参加できる生き生き100歳体操の開催についても、地域包括支援センターから提案を受け、実施に向けた検討を進めています。被災地へ送る千羽鶴制作にも利用者とともに参加しています。また、行事への家族からの手伝い申し出を受け、協力体制を整えています。	地域との連携に向けた取組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ご利用者様のことで、地域包括センター、生活支援課等に相談し、話し合いを行っています。	生活保護費受給者のおむつ購入費などについて南生活支援課に相談しています。入居費用を支払えない利用者には成年後見人の必要性を判断し、南高齢・障害者相談課に相談のうえ市長申立を行っています。職員の専門性向上を目的に、相模原市グループホーム連絡会に加入し、勉強会にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、施設内で研修を行っています。身体拘束はありませんが、ご利用者様への対応等話し合いを行っています。	管理者は職員からの見守りセンサーに関する質問に対し、利用者の動きを規制する行為は身体拘束にあたるが、立ち上がりを把握して転倒リスクを回避する支援は拘束にあたらなと説明しています。また、スピーチロック防止のため、「座っててください」などの行動制限につながる声かけではなく、「あと3分で行きます」と見通しを伝える声かけの実践を職員に指導しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行い、虐待について学び、再認識する機会をもっています。	管理者は虐待防止には職員のストレス解消が重要と考え、職員のストレス軽減に向けた取り組みを行っています。ストレスが見られる職員には仕事や体調などの要因を把握し、仕事をチームで対処する体制づくりを進めています。指導が必要な場面では、職員が自ら課題に気づけるよう働きかけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は、管理者ほどこの制度に関わる機会は少ないのですが、ご利用者様の中には後見人をつけている方もいるため、研修等を通して理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約対応は管理者が行っています。ご利用者様やご家族様の不安や疑問点をお聴きし、理解、納得されるまで十分な説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様、ご家族様からのご意見や要望等、施設内で話し合う機会を設けています。	行事への手伝い申し出や、職員の声の大きさに関する意見など、家族からの声を受け取り、運営改善に活かしています。利用者の日常を家族と共有するため、毎月「グループホームたより」を発行し、写真を多く掲載することで日常の様子を伝えています。家族からは内容への反響や楽しみにしているとの声を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はフロアで行う会議等に参加し、職員の意見を聴き、運営に反映しています。	職員の意見は日頃の会話や会議を通じて把握しています。行事の企画は職員に一任し、次年度の行事計画では夏祭りを暑さへの配慮から秋祭りへ変更する提案が職員から上がっています。支援方法のばらつき解消を目的に、支援の標準化に向けた提案を受け、取り組みを進めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に職場環境の見直しや、条件の整備があります。10月に給料の見直しがありました。	職員が働きやすい職場環境の整備を目的に、職員間で気軽に話し合える雰囲気促進し、柔軟な勤務体制を整えています。職員が工夫した取り組みに対しては、管理者が取り組みの背景を確認しながら積極的に評価し、現場主体の取り組みの定着を図っています。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内で月1回の研修を行うほか、本社でもスキルアップ等の研修を行っています。研修を受けた職員は、ほかの職員に実践を通して学んだことを伝えています。	管理者は手本を示し実践を通じて学ぶ育成を基本とし、職員の適性に応じた育成を行っています。法人指定の資格取得費用への補助制度を整え、取得を希望する職員を支援しています。外部研修の受講内容は会議で共有し、職員全体のスキル向上を図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は本社にて、ほかのグループホーム管理者との話し合いに参加しています。また、職員も外部の教育等を通して、ほかの会社の職員と交流する機会があります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様、ご家族様から要望や困りごとを聴き取り、ケアプランに取り込んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前に施設見学していただき、施設の説明のほか、困りごとと要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に情報を収集し、分析に努め、話し合い等を通して職員間で共有しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活介助の中でコミュニケーションをとるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出や面会などの希望に、できるだけ添えるよう努力し、ご家族様にはご利用者様の様子をお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	特別な場合を除き、面会を受け入れています。	利用者のこれまでの生活習慣や人間関係の継続を大切に、面会に訪れる友人・知人や手紙・年賀状のやり取りを通じた交流を支援しています。把握した大切な思い出は職員間で共有し、日常の会話に活かしています。ラジオを聴きながら仕事をしていた利用者には、その習慣を継続できるよう支援しています。家族一緒に墓参りや自宅への外出も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員間の情報共有や、席替え等を通じてご利用者様同士が一緒にいられる環境を作っています。ご利用者様同士が話しやすいよう、職員が間に入ってコミュニケーションをとることもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用契約が終了した後も、ご利用者様やご家族様からの相談を受け入れて、支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの立場や気持ちを深く理解し、共感できるように努めています。	入居時の情報をもとに日々の生活の中で会話を重ね利用者の思いを聴き取っています。聴き取りが困難な人には口の動きで対話に努めコミュニケーションを図っています。利用者の思いや意向は職員で共有しています。「年末年始を自宅で過ごしたい」との思いに家族と調整を重ね実現した事例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を読み、ご利用者様やご家族様の話を聴くことで、これまでの暮らしの把握に努めています。職員間の話し合いを通して情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の話をよく聴き、表情や様子を観察します。ご利用者様の様子を職員間で話し、心身の状態の把握に努め、情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様の状態に変化がないか確認し、良い暮らしになるために全体で考え、計画を作成しています。	利用者が楽しく生活でき、家族も安心できる事を大切にケアプランを作成しています。今できることを継続できるように朝夕の体操などの運動を多く取り入れています。毎月のカンファレンスで医療情報や介護支援の状況を検討し、3ヶ月ごとにモニタリングを行いケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員間で情報を共有して、提供したサービスや気付いたこと等を、個人記録や支援経過記録に記録しています。また、記録した情報をもとに話し合いを行い、介助や介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様やご家族様の希望にできる限り寄り添えるように、職員全体で話し合い取り組んでいきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	移動バン屋のイベントの日や、散歩等を通して、安全に楽しむことができるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族様の希望されるかかりつけ医を決めて、月2回訪問していただいています。ご利用者様の情報や様子は往診の医師に報告、相談し、適切な医療を受けられるように支援しています。	利用者はかかりつけ医を選択でき、入居前のかかりつけ医の訪問を受ける人もいます。かかりつけ医の訪問診療は2週間に一度のほか緊急時にもあります。事業所に週1日看護師を配置して医療機関との連携や職員からの相談に対応しています。専門医の受診は家族対応ですが情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の体調変化や困っていること等を看護職員に伝え、対応してもらったり、適切なアドバイスをいただいたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に対し積極的に情報提供を行うよう努めています。また、入院中、退院時には病院から情報をいただき、連携、協働に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の際にはより慎重にご家族様と話し合い、見取りを含め地域関係者と共に最善へと努めています。	入居時に事業所で出来る対応について説明を行い共有しています。終末期には早い段階から家族の意向を確認し、今後の方針について話し合います。職員は頻りに訪室して声がけや検温、呼吸の確認、好きな音楽を流すなどできる事を考え支援しています。職員はその都度支援内容を振り返り支援の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成し、目に届くところに貼ったり設置したりしています。AEDを設置し、すぐ使用できるよう毎日確認しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年2回行っています。消防署職員に年1回の直接指導を受け、火災発生時や避難誘導の注意点、消火器使用方法等の指導を受けています。	災害BCP(事業継続計画)と感染症BCP(事業継続計画)の訓練、日中と夜間想定避難訓練を年2回実施しています。職員の役割分担や声かけ、避難経路、動線、利用者の誘導、火災報知機など訓練の手順を確認しています。管理者によるAED操作訓練を実施しています。備蓄品はリストを作成し管理しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の立場になり、一人ひとりの意思尊重に気を付けています。言葉遣いにも注意し、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。	接遇は人間関係やコミュニケーションを大事に考えて、「1対1の声かけ」と「大きな声を出さない」ことを基本にしています。排泄や入浴、食事、着替えなど一人ひとりのペースとプライバシーを尊重して支援しています。職員の心身の安定が利用者の尊厳ある生活を支える基盤と捉え、管理者が差し入れを用意して職員と話し合う機会を設け、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の気持ちに寄り添い、ご利用者様のペースで選択肢を変えながら、自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先せず、ご利用者様一人ひとりを尊重し、今できる事を見つけながら安心して過ごせるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様の希望に沿って、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援しています。「お似合いですね」「素敵です」の声掛けも心掛けています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の食べたいものを聞き取り、希望に合った食事行事を開催しています。今後は、ご利用者様が食事作りや片付け等に関われるよう努めます。	食事の質向上と利用者の楽しみを目的に、2ヶ所の業者から交互に食材を取り寄せ、事業所で調理しています。残食の多い焼き魚を煮魚に変更するなど、利用者の嗜好に合わせた工夫を行っています。職員が行事メニューを考案し、鰻重やちらし寿司、手作りケーキなどで食事を楽しめる機会を設けています。玉ねぎの皮むきやテーブル拭きなど、利用者が役割を持てる場面を取り入れています。月1回の移動パン屋では好みのパンを選び、スープとともに昼食として提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や水分摂取量は記録し、気になるときは医師に相談、指示をもらい、一人ひとりに合った支援をしています。定時に、またタイミングを見てお茶等を提供し、声掛けを通して水分補給ができるよう努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行っています。一人ひとりの意思を大切に、口腔ケアのタイミングを考え行っています。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的に排泄の声掛け、誘導を行っています。一人ひとり様々な排泄パターンを把握し、早めに察知できるよう努めています。	排泄チェック表を活用し、利用者の安心感を確保するためなじみの職員がトイレ誘導を行い、夜間を含めトイレでの排泄を支援しています。排便がない利用者にはトイレ内の付き添い時間を長くするなど、一人ひとりの状況に応じた支援を行っています。夜間は車いす利用・おむつ使用の利用者にもトイレ誘導を行い、自立排泄の維持を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々、KOT対象者の把握をし、対応しています。水分摂取量の確認や、1日2回のラジオ体操、散歩等行い、便秘予防に努めています。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様の体調や気分に合わせて声掛けを行い、気持ちよく入浴ができるよう支援しています。	利用者が浴槽に浸かり、くつろげることを大切に支援しています。車いすの利用者にもリフトを活用して支援しています。一人ひとりの気分や体調を考えた声かけをしています。ゆず湯や入浴剤を取り入れるなど入浴を楽しめる工夫をしています。入浴時間を1対1でゆっくり話すことのできる機会として活用し、利用者との関係構築を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりが安心して休めるよう、照明や室温など整えて、生活リズムや体調に配慮した支援ができるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	専任の薬剤師に薬について詳しく説明してもらい、職員間で情報を共有しています。また、職員が服薬確認と見守りを行い、記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、ご利用者様に食器拭きや洗濯物たたみ等の家事を行っていただいています。「今日は洗濯物ないの？」等聞いてくださることも多く、積極的に家事に参加されています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの状況に合わせて、外出や散歩等行っています。ご家族にもご協力いただき、外出できるよう支援しています。	一人ひとりの状況に応じて、事業所周辺の散歩や玄関前での外気浴を行っています。駐車場で花見や花火、移動パン屋の利用など、外に出る機会を積極的に設けています。家族の協力を得ながら、周辺の散歩や外食に出かけ、自宅に立ち寄る利用者も支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は管理者が行い、トラブル防止に努めています。ご利用者様が希望して必要なものを購入するときは、ご家族様に相談して対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の子機を使用し、ご家族様と電話で話ができるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用様が安心して過ごせるよう、一日の流れに合わせて照明の明るさも工夫し配慮しています。季節に合わせてご利用者様と一緒に作った壁飾りを壁に貼り、四季を感じていただけるよう努めています。	共用空間は照明や温湿度に配慮し、清潔な環境を維持しています。利用者が生活リズムを認識できるよう、一日のスケジュールを時計の絵で掲示しています。書き初め会で書いた今年の抱負を職員と協力して壁飾りとして掲示し、前向きな気持ちの維持を図っています。利用者は大半の時間をリビングで過ごし、体操や合唱、ゲームなど活動の充実を支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用様が安心して共有空間で過ごせるよう、椅子やテーブルの配置に配慮しています。ご利用者の意見や希望を反映し、より良い空間にできるよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具や持ち物の配置は、転倒リスクを配慮しつつ、できる限りご利用し様の希望に沿うよう努めています。	使い慣れた家具や雑貨、書籍などの持ち込みを促し、なじみの環境を整えています。居室ごとに担当を決め、安全への配慮や掃除、衣替えなどを支援しています。各居室に車いす対応の洗面台を設置し、洗顔・歯磨きを必要に応じて支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒事故防止の視点から、ご利用者の動線を把握し、歩行や日常動作の安全を確保できるよう努めています。		

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所で理念を決め、施設内に掲示し、常に確認できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	2022年から上鶴間自治会賛助会員に参加、2023年5月より運営推進会議を対面的に開催し、自治会、地域包括センター、民生委員等、外部との関わりは直にできています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設の見学は随時受け入れて、ありのままの様子を見ていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染症対応の情報交換、対処報告、施設の状況など話し合い、サービスの向上や地域貢献に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者の方が来設される機会が増えています。わからないことも聞きやすい状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回施設内で研修を行い、学びの中で職員の意識を高めています。委員会を発足し、フロア会議等でも問題点を話し合い、ケアに活かしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回施設内で研修があり、全職員が虐待に関する意識を常に持っています。委員会を発足し、虐待を見過ごさない姿勢に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修会を開き、制度について学んでいます。職員や管理者で話し合い、支援に結びつけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者に一任されていますが、職員も応えられるように報告、連絡、相談を徹底しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内では、お電話や訪問等の際にご意見を伺う機会を設けています。ケアや運営に反映できるよう設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、職員との間に定期的に面談を行い、職員からの情報収集の機会を作っています。意見や提案は、すぐに反映に至らずとも、よりよく改善できるように努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者から労働時間について説明を受けています。残業や無償残業のない環境整備、やりがいのある職場作り、より楽しい職場環境作りに努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外に多数の研修が用意されています。職員はそれぞれの力量に合う、または目的にあった研修を受ける機会をもち、働きながら成長できる環境が用意されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、相模原市グループホーム連絡会や勉強会に出席し、他施設の管理者等と交流する機会を作っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様の入居日直前に、必ずカンファレンスを行い、どのようなケアをしていくか決めます。入居日から1週間をめぐりにモニタリングシートで生活内容を記録し、職員間でご利用者様の情報を共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の思いをしっかり受けとめたうえで、施設内でできる事、できない事を説明しています。ご家族様にご理解、納得いただくことで、風通しの良い関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様とご家族様の関係性をしっかり観察し、安心して生活していただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様を見下すような言動はせず、共に支え合い、信頼関係を築けるように思いやりをもって接しています。ご利用者様が穏やかに過ごされるよう、支援に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様の様子は、ご家族様にすべてお伝えしています。現状を理解いただいたうえで共に支え合い、関係性を築けるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の大切な思い出は、職員間で共有し、話題になるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士と一緒に話をしたり、交流が持てるよう職員が誘導し、支援に努めています。また、交流のための活動時間を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、ご家族様からの相談等には必要に応じて対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で、ご利用者様との会話を中心に思いを把握し、希望に沿えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から情報を収集するほか、ご利用者様から話を伺い、今までの生活や暮らし方について把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話の内容や表情から、ご利用者様の体調や気持ちの変化を把握できるよう努めています。また、職員間で情報を共有して支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様、職員、計画作成担当者と課題やケアについて話し合い、ご利用者様が良い暮らしをするために、計画を作成します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	提供したサービスや支援した内容を、個人記録や支援経過記録に記録し、職員間で情報を共有しています。また、記録は介護計画の見直しにも活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様に月1回お便りを送付し、施設内の取り組みやご利用者様の様子をお伝えしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	理美容や外食産業、移動パン屋等、地域資源を活用し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう、支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様が希望されるかかりつけ医と連携し、適切な医療を受けられるよう情報を提供し、支援しています。受診後の情報もご家族様に報告、共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の体調や様子等について相談し、適切なアドバイスをいただきケアに活かしています。介護職員では行えない類の排便確認や爪切り等を行っていただきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様がスムーズに普段の生活に戻れるよう、かかりつけの訪問医と入院先の医療機関との情報交換を支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の希望や要望等を伺い、早い段階で話し合い支援に取り組んでいます。医療機関から指示がある場合は、ご家族様に連絡し対応に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成し、目の届く場所に配置しています。ADLの使い方や初期対応等、研修等を定期的に行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を行っています。日中や夜間の想定で、年1回は消防署職員の直接指導を受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の人格、性格を把握できるよう努め、職員間で話し合い情報を共有しています。ご利用者様の神格を尊重した対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の希望を尊重しながら、できるところをしていただき、できないところは選択肢を変えながら、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様の体調や気分配慮し、臨機応変に対応しています。ご利用者様のペースを大切にし、希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様の好みを把握し、その日の気分や体調に合った衣類等をお勧めしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聴き取り、イベントや行事等行いできるだけ対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量共にしっかり記録し、1日の摂取量を誰が見てもわかるようにしています。ADLが変化したときは、食形態等も即時変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりのADLに合わせた対応を行っています。時間がかかっても、ご自身でできる事はしていただくように支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつをしていても、トイレ誘導ができる方はできるだけトイレに行っていたら、失敗を成功へ導くよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ご利用者様一人ひとり個人差があるものですので、個々に応じたコントロールができるよう、支援しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様に笑顔で「ありがとう」と言っただけ、寄り添った支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を理解し、ご利用者様が安心して過ごせる環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助時は必ず職員同士でダブルチェックを実施しています。薬や服薬タイミングに変更があったときは、職員間で速やかに報告、連絡し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器拭き、洗濯たたみ等できることをお手伝いいただき、朝は体操や歌等、多人数で一緒にできることを行うよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族様にもご協力いただき、外出できるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルになるので、貴重品の所持はお断りしています。現金に関しては、管理者がご家族様から預かり管理しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様、ご家族様から申し出があれば、対応します。お電話等は施設のものを使い支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間としてトイレ等の照明は、入室した時点でセンサーが反応して明るくなるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	仲の良いご利用者様同士を隣席にしたり、テーブルやいすの配置を工夫したり、心地よく落ち着ける環境を提供できるよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が長い間愛用し、使い慣れた家具等は、いつも目に留まるよう安全面に配慮したうえで居室に配置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できること」を念頭に、洗面台は個室内に用意して、自分と向き合う時間を作れるように工夫しています。		

2025年度

事業所名 アクア上鶴間グループホーム

作成日： 令和8年 4月 30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域との連携に向けた取り組み	運営推進会議で出される情報の中から、施設として取り組める項目があれば参加をしていく	運営推進会議を通して地域から発信される行事や訓練に参加をしていく	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月